

“コロナ禍に明るい話題” ～本山にオール(純)岡谷産の絹糸を進納～



岡谷市「絹工房」で絹糸を木枠に巻き取る千原会長と山下氏
—3P・4Pに関連記事— (2.10.1「写真:岡谷市民新聞社提供」)



発行所
岡谷市郷田一丁目6番3号
TEL(0266)22-2524
金松山 敬念寺
発行
敬念寺門信徒会
編集
会報組織委員会

朝7時はみ仏さまや
彼(か)の人との
出会(であ)いの時間

本年の報恩講法要について

慈光のもと、門信徒の皆様にはご健勝にてお過ごしのことと思います。

今年も、宗祖親鸞聖人の御命日をご縁とする報恩講法要の時期が近づいてまいりました。

本年の報恩講法要は、新型コロナウイルス感染症の拡大状況に配慮し、予防対策に万全を期すべく、法要内容並びに報恩講関連行事を縮小・制約して開催することとなりました。

敬念寺報恩講法要は、感染症防止対策を取ってお勤め致しますので、皆様お誘い合わせてご参拝下さるようお願いいたします。

令和二年十月三十一日 敬念寺住職 釋 宏真

「敬念寺報恩講法要」の御案内

本年の報恩講法要は、新型コロナウイルス感染症予防に万全を期すべく、法要・同関連行事内容を縮小・制約して次の内容で計画しています。

★法要出勤僧侶の限定：住職、前任職の二名(松本組内の僧侶方の出勤はありません。)

★法話講師：敬念寺住職(布教使の法話無し)

★お齋(お食事)無し(受付にてお持ち帰り用御酒・参拝記念品をお渡しします)

★コールガンダーの仏教賛歌コーラス無し

★門信徒作品展は山野草、菊花、写経作品の展示に限定(一般作品の展示募集無し)

★本堂は三密を避けるため椅子の間隔を空け、換気のために戸を開放。会館二階講堂にも席を設け、映像・音声の同時中継を行います。

— 大切な報恩講法要に大勢の皆様がご参拝下さるようお願い申し上げます。 —
令和二年十月三十一日 門信徒会長 千原 博幸

ご寺院行事案内

- 11月 8日(日) 報恩講法要 前10:00
- 1月 1日(金) 元旦会(法要) 前 7:00
- 1月16日(土) ご正当法要(新年初まいり) 前10:00
- 3月20日(土) 春の彼岸法要 前10:00

ご定例法話案内

- 11月20日(金) 講師 (長野教区)先生 (長野県)
- 12月20日(日) 講師 丸山文雄 先生 (新潟県)
- 1月20日(水) 講師 (長野教区)先生 (長野県)
- 2月20日(土) 講師 三寄靈証 先生 (福井県)

いずれも毎月20日 夜7:00からです。

―住職から―

本年度におきましては「新型コロナウイルス感染症」による集会の規制・自粛によって当山敬念寺におきましても例年通りの行事・法要が実施できない状態が続いて御迷惑をおかけしております。

門信徒の方々も思う通りに法要を勤めることが叶わず、残念に思われいております。

状況に応じてできるだけ平素を保ち勤めてまいりますので何でもご相談ください。

令和元年度の報恩講をもって住職継職をし令和二年度報恩講をもって年間行事の一通りを経験させていただきました。

コロナ禍にあつて十分な活動はできておりませんが、改めて「住職」という任の重さに思いを致すところでもあります。

この度の「コロナ」という難事に当たって、それ以前の平素の生活・社会がどれ程有難く尊いことであつたかと感じます。

私たちはここに「今といのち」を、ともすると「当たり前・当然」思つており「自分」中心のあり方に留まりがちです。

望むことではないけれど悲しみや困難に遭う中にいのちの在り方が問われてくるのではないのでしょうか。

それはこの度の難事だけでなく、新しい人の今生での別れや老いや病といったことでもありましよう。

『いのちの在り方を自らに問うこと、現在の社会の不便さ生きづらさからしてもいのちというものは「わがいのち」だけでなく、「他のいのち」との関係性の中にある、まさしく「因縁」なかにあります。おもしろいにならないのが私たちの「娑婆(しゃば)」世界であります。この機にあつて「いのち」ということを自らに問うてみたいと思います。』

今お寺では十分な体制で「いのち」を問う場が用意されてはおりませんが、それぞれの「私」が阿弥陀仏の願ひ(仏願)に耳を傾けみ教えに我が身・我が心を見つめてみることをお勧めいたします。

生かされて 生きてきた
生かされて 生きていく
生かされて 生きていこうと
手を合わす 南無阿弥陀仏
(中川 静村) 合掌

―敬念寺今後の展望―

僧侶としての名乗りをして三十年余でありながら、住職継職一年目、立場を変えてすべてのことが初事のように感じております。

前任職や皆様のご苦勞を身に染みて感じているところです。

私自身のこと、また敬念寺のこれからを新任職として考えていかなければなりません。

数年前より前任職(釋玄真)の働きかけにより「敬念寺中・長期ビジョン」と銘打ち今後の敬念寺の展望について総代・門信徒会常任委員会と共に思案をしてみました。お寺の抱える問題点や今後への期待・要望が挙げられております。

第一に、お寺の本身である「伝道・布教」の充実。現在敬念寺門信徒会では、年間の恒例行事並びに教化委員会を中心に各教化事業を進め、団体活動としては婦人部が活動しております。前任職によって壮年部の活動も十数年前には活動がありました。現在は活動を休止しております。

住職交代における次世代門信徒の育成は急務であります。住職と共に浄土真宗のみ教えの中に歩んでいただく、お寺を支えるお仲間が必要。壮年部また青年部という組織の活動ができればと期待します。

そのためにはお寺として、住職として活動の充実、み教えに出遇う場所、研修会や門信徒の悩みを吐露する場などを充実していかなければなりません。

「お寺は敷居が高い」「葬式と法事以外に行くところではない。」と思われる方がおられますが、今こ

にある「私」の「いのち」について学んでいく場であればと思います。住職としての努力・研鑽に励む所存でありませんが、門信徒の皆様にも引き続きご協力いただきたくお願いを致します。

「み教え」は不変ですが、社会・世間は常に変化を続けております。今までの培ってきた考え方や習慣・常識のままではみ教えの教化伝道は守れません。時代に即した方法に変わっていかねばなりません。

一つ、現実的なことですが現在敬念寺は寺と門信徒の組織によって護寺されています。各地域のお世話人(約百十名)を代議員とし、各戸に寺報などの配布、門信徒会費の徴収をしていただいておりますが、ここ数年お世話人のお仕事の受け手がいない地域が増えてまいりました。

会費の徴収はお寺・門信徒会の活動資金として必要であり、お世話人の各戸への徴収依頼が叶わなくなれば組織の仕組みの変更をしなければなりません。現状の体制を維持していく方向ですがいずれ考えなければならぬ課題です。

他にもお寺の抱える課題、門信徒が抱える問題等多くの課題がありますので、時代に即応のできるお寺を目指していきたいと考えております。

釋 宏真

トピックス・その一

―今年も本山に絹糸を進納―

一頁と四頁に関連写真を掲載しましたが、門徒総代の山下幸治様は縁あつて平成元年から三十二年間本山に絹糸(親鸞様御真影の念珠切房に用いている。)を進納されています。

既号百二十六号に、本山から表彰された関連記事を掲載しましたが、今回進納された絹糸はオール(純)岡谷産ということで、コロナ禍にあつての明るい話題として、「市地域おこし協力隊員」からの情報発信で取り上げられ、地元岡谷市民新聞他県内の二紙(長野日報・信濃毎日)、テレビ(LCV・NHK)が取材、報道されました。

今回は、川岸の三沢区民農園が収穫した繭を使つての絹糸で、文字通り「純岡谷産」として進納されたところです。以下十月二日付岡谷市民

新聞記事から一部を引用させていただきます。

「・・・絹糸の進納はそれまで務めてきた普願寺(須坂市)から話があつた。山下さんが一手に引き受け、十五年からは宮坂製糸所で製糸。更にその後は、ボビンから整経機に巻き付けて糸の張りを整える後工程、進納用の木枠に巻き取る作業は岡谷絹工房が担うようになったという。木枠は進納用五巻、予備一巻を作る。それぞれに十八米の糸五百本を巻き取り、飾り糸で整える。毎年山下さんが西本願寺に届けてきたが、高齢を理由に退き、今回から同じ任務を門信徒会長の千原博幸さんが引き継ぐ。一日には絹工房で木枠に糸を巻き取る作業があつた。

山下さんと千原さんも携わり、山下さんは「その場その場でやってきたことが、気付けば三十年以上たつていた」と振り返り・・・」



もと子さんは、市内間下区の武居家の長女として生まれました。高校卒業後国家公務員試験に合格し、建設省長野国道工事事務所に就職。国道の維持管理の業務に携わりました。

二十二歳の時、駒ヶ根市出身のご主人様と結婚されました。帝ピスに勤務されていたご主人ですが、その後、武居家の会社(製糸関係の機械の仕事)を承継されました。

しょう しき
青色
しょう こう
青光
七十一回

お寺をはじめ積極的に活動

松崎もと子 さん
岡谷市神明町

ご主人は五十八歳の折、病気に倒れてしまわれ、以来十五年間の闘病生活の後往生されました。お寺にご縁をいただいたのは、ご主人が倒れたのをきっかけにお寺を決めておこなうては、とお尋ねしてからだそうです。

以来、『年数回届けられる「敬念寺だより」ではお寺の様子がよくわかります。』と大切に整理保管されているそうです。

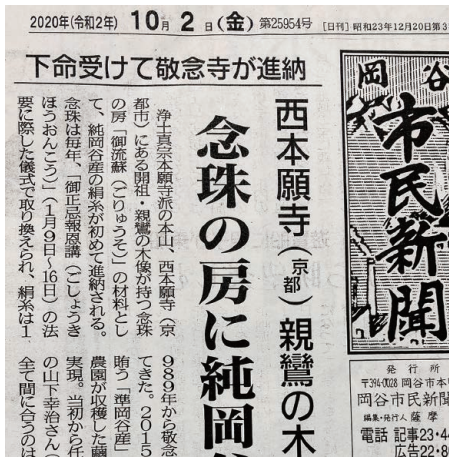
又、当時婦人部長であつた宇都宮様に誘われ、婦人部に仲間入りさせていただきました。その後、お寺に折をみては、よく参拝されており、早朝連続参拝で「感話」を発表されたりしています。

お子様はお二人で、長女の方は長野市に在住、次女の方は京都府に在住で、山科別院のボーイスカウト活動に関わり、その別院をお借りして「虹色キッチン・子ども食堂」の運営に携わっており、それぞれ活躍されています。

また、もと子さんは「実践倫理宏生会」に関わり活躍されており、ご自分の信念をしっかりと持ち、他の団体でも積極的に活動されています。

控えめな中にも、芯の強さとやさしさを兼ね備えたお方であると改めて感じさせていただきました。

(滝川 記)



(10月2日付岡谷市民新聞の記事)



(予備の絹糸を日曜礼拝参拝者に披露: 2.10.4)

一頁写真で、木枠に巻き取った進納用絹糸五巻。予備一卷は敬念寺に保管されています。

トピックス・その二

令和二年度 報恩講法要のご案内

—今年最後の法要です。おさそい合わせてお参り下さい—

- ◆日時 令和二年十一月八日(日) 午前十時から
- ◆行事日程 (開始十分前には入堂ご着席ください。)
- 受付 九時三十分～九時五十分
- 会場 本堂並びに会館講堂
- 報恩講法要 *会館講堂は映像・音声を同時中継します。
- 住職法話 十時～十時四十五分
- お斎(お食事) 十時五十分～十一時四十分
- お斎(お食事) 本年は無し
- ◆報恩講協賛(本年は縮小・制約して実施します。)
- 門信徒作品展「菊花」「山野草」
- 「写経」(書いて味わう讃仏偈の写経)

● マスクを着用してご参拝ください。

門信徒会費・護寺協力金納入の御礼

今年度の門信徒会費につきましては、皆様それぞれご配慮いただきありがとうございます。また、財務基盤強化のため平成二十八年度に新設され、五年目となった「護寺協力金」については、担当のお世話人様には説明とお願いに大変なご苦労をおかけいたしました。

今年度もお陰様で、大変多くの皆様方のご理解をいただき、現在六十一万円余(十月十六日現在)の尊いお心をお寄せいただいております。

ご協力下さった門信徒の皆様並びにお力添えいただきましたお世話人様に厚く御礼申し上げます。

この浄財は「護寺基本金」に積み立てて、引き続き今後の大規模営繕・大型法要費用等に備えてまいります。

門信徒会会長 千原 博幸
 財務委員長 西山 周治

令和3年回忌表 (あなたのお家は?)

1周忌	令和2年
3回忌	平成31・令和元年
7回忌	平成27年
13回忌	平成21年
17回忌	平成17年
23回忌	平成11年
27回忌	平成7年
33回忌	昭和64・平成元年
37回忌	昭和60年
50回忌	昭和47年
100回忌	大正11年

(上記を参考に予定ください。)

親睦旅行について

今年度の親睦旅行については、新型コロナウイルス感染症予防のため中止いたしました。

来年度(以降)の企画としては、本山参拝を柱に検討してまいります。なお、二〇二三年(令和五年)には「親鸞聖人ご誕生八百年・立教開宗八百年」の本山慶讃法要が厳修されます。

(参照: 敬念寺だより百二十六号三頁にご門主のご消息を掲載)

【担当 教化委員会】

編集後記

コロナ禍で、お寺の行事が制約されており、今号の皆様にお伝えできる情報が少ない状況です。

今年最後の行事、私たち門信徒にとつて大切な「報恩講法要」が近づいてまいりました。今月から日曜礼拝の正信偈は、報恩講法要でお勤めする、「行譜」で唱えさせていただきます。来る法要では「行譜」による正信偈の声が響きわたります。

(白田 記)